



さいとう 誠 誠策で勝つ

船橋市議会議員

〒273-0021 船橋市海神4-2-2-12

TEL・FAX 047-431-1717

E-mail seisaku@jasmine.ocn.ne.jp

URL <http://seisaku-makoto.com>

電話 de 詐欺県内ワースト1

7月の市議会会派代表者会議において、電話で詐欺被害について報告を受けました。

平成29年、船橋市の電話 de 詐欺被害額は、**県内ワースト1位**、**被害総額3億9000万円**です。

認知件数は191件で県内ワースト2位です。

平成25年当時は、認知件数79件、被害総額2億3000万円でしたが、**過去最悪**の状況とのことです。

船橋市は、非常事態宣言を発しましたが、第2段階として、具体的対策を講じなければなりません。

私は以前、迷惑電話チェッカー実証実験を議会で提案をして、現在、200台貸与されています。

相手の音声を録音するシステムですが、この機器を利用されている方々は、詐欺被害には合っていないとのことです。

会派代表者会議の中で、**非常事態宣言**を考慮し、**迷惑電話チェッカー購入**にあたり、**しかるべき補助予算をつけること**、**防災行政無線の活用が週2回では少ないので、更に拡充すること**を提案しました。

船橋市内の65歳以上高齢者世帯数の現状は、独居24910。

高齢者夫婦25923。

若い世代と同居している高齢者世帯は、42340。

詐欺被害としては**独居と高齢者夫婦で8割**を占めています。

詐欺被害対策としては、

1. **留守番電話機能にすること。**
2. **ご家族に必ず確認の電話をすること。**

犯人は金融機関営業日の平日を中心に、鉄道駅に近い場所を狙っているとのことです。

十分にご用心ください。

ごみ減量先進市視察

いないが、おそらく、買い物の際、余計な包装・プラスチック・レジ袋などをもたらさないようになったからではないかとのことです。

船橋市の可燃ごみ収集回数変更へのプロセスには、丁寧さを欠いたと言わざるをえないが、いづれにしても、可燃ごみ削減をしていかななくてはならないと痛感しました。

焼却灰を処理する最終処分場への負担を減らさなくてはなりません。

午後は、藤沢市を視察しました。

藤沢市は人口43万人です。

最終処分場が1カ所のみとなっており、延命化のため、焼却灰の溶融資源化を図っています。

焼却灰の全量を資源化(道路の路盤材)しているとのこと。

このようなことから、ごみ減量に積極的に取り組んでいます。

平成19年4月から、新聞・段ボール・古布類等の除いて、戸別収集をスタートさせました。

前段階で、モデル地区をつくり、平成17年度2000世帯、18年度3万世帯で試行。

戸建ての場合、敷地と道路の境にごみを出し、集合住宅の場合、専用集積所にごみを出すとのこと。

ごみ収集作業員は、不適切なごみが出なくなり、ごみで汚くなったステ

ーションの清掃の手間がなくなり、作業が合理的になったそうです。

高齢者、障がい世帯には、家庭内まで入り、新聞等も含めて、ごみ収集を実施しています。

更に、平成19年10月から、可燃ごみ有料化をスタートしました。(10リットル袋10枚200円、20リットル袋10枚400円等)

20リットル袋のごみ処理に約156円かかっているそうです。

25%を市民に負担してほしいとのこと、1枚約40円の価格です。

スタート前に、2年半準備期間を設けて説明会を実施し、資源化と最終処分場の延命化のためと説明。

また、プラスチック製容器包装ごみについては、平成14年4月にリサイクル開始。商品プラスチック(パケツ・衣装ケース等)については、平成25年4月からリサイクル開始。

藤沢市の場合は、戸別収集と有料化をセットで実施しました。

最終処分場への負担軽減・二酸化炭素削減・資源化のためには、ごみ減量は必要であり、反対する人はいないと思います。

ただし、有料化やごみ収集回数の変更については、何年も前から、住民の皆様へ説明し、丁寧な議論をするべきであると考えます。